

ハワイ研修旅行について

1. はじめに

社是・経営理念・行動指針の実現に向け、小松社長が先回りしてビジネス設定をされ、時代背景の中で布石を打って待つということを順序とタイミングをみながら実践され、創業以来 45 年を迎えました。

現在、門番・水神・研究所は新たな段階を迎え、クラウド時代の世界展開へ向けた新型門番開発、工場空間価値創造ユニット、トルンプ社加工機、ACS 社シート裁断機、ピーベス社塗装ライン導入、ダイフク自動倉庫改修、3DCAD の導入、QR コードを活用した IoT 化、PEC 協会の研修参加など改革・改善、風除室等への門番設置が進んでいます。同時に場所を選ばない働き方に向けた環境整備の前段階として V-Cube 導入や大会議室映像設備更新が進み、今後の働き方改革の世界展開モデルとなるよう、社是・経営理念・行動指針に共感した方が世界中からは是非自分も参画したいと集まってくる流れが生まれようとしている段階にあります。今後はエクス社、あしたのチーム等とビジネスモデルの再構築、仕組みの見直し、新体制に向けた協議も始まっていきます。

日本ビジネスインテリジェンス協会中川氏より提供のありました、「2050 年の世界」に激変する 21 世紀の行く末を見つめ、変化に対して迅速な対応と曇りない視力を獲得することが私達を成功に導くと書かれています。行く末を見つめるためには、過去を振り返り、現状を正しく認識し、そして今後の小松グループとして社是・経営理念・行動指針の実現に向け、チームをつくり、チーム力を高め、一度しかない人生を楽しく生きるためのきっかけづくりとして小松社長より今回のハワイ研修旅行についてのご提案をいただき、社内外で 40 名が参加させていただく機会をいただきました。尚、今回の研修旅行では活動資金を活用させていただいております。

2. ハワイ研修旅行社長アドバイス

- 1) 目的は「社是・経営理念・行動指針の実現、人生を楽しく生きる為」
- 2) 上記目的を実現するためのチームをつくる。
- 3) ハワイ研修旅行のプロセスを通じて目的を実現するためのヒントが生まれ、小松グループの共有の財産となっていく。
- 4) 事業継承と発展
- 5) チームとして積極的にやっていく。
- 6) チーム力を高めるために生かす
- 7) チームとしてやっていくためのコミュニケーション力・リーダーシップ力の向上と連帯感の強化
- 8) チームとしてやっていくための専門性と役割、責任の明確化
- 9) 本格的なグローバル社会を迎え、ハワイ研修旅行はグローバル会社への入口となるよう広い視野で国内外、社内外に役員・社員の立場を生かして自分自身の居場所をつくる。そのためには正直・誠実・素直でなければならない。

3. 研修旅行スケジュール

2017年6月5日(月)~6月10日(土) 6日間 出雲空港発

宿泊先：ワイキキ・パーク・ホテル

| 日付 | 時間 | 行程 |
|--------------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月5日(月) | 16:00 18:10 7:25 夕食 | 出雲空港集合 出雲縁結び空港から JAL チャーター便で出発 ----- (日付変更線通過) ----- 着後：入国審査後ホノルル市内へと移動 ホノルル市内観光 (ヌアヌパリ、イオラニ宮殿、カメハメハ大王像等) ホテルチェックイン後、懇親会 |
| 6月6日(火) | 終日 18:30 | パールハーバー観光 アリゾナ記念館献花、寄付 50 万円 夕食・聴き合い |
| 6月7日(水) | 終日 | チーム行動 (オプションツアー) |
| 6月8日(木) | 終日 夕食 | チーム行動 懇親会 (ディナークルーズ) |
| 6月9日(金) | 午前 10:25 | ホテルチェックアウト後空港へ 空港到着 JAL チャーター便にて帰国の途へ |
| 6月10日 (土) | 14:45 | ----- (日付変更線通過) ----- 着後：入国審査 |

5. アリゾナ記念館について



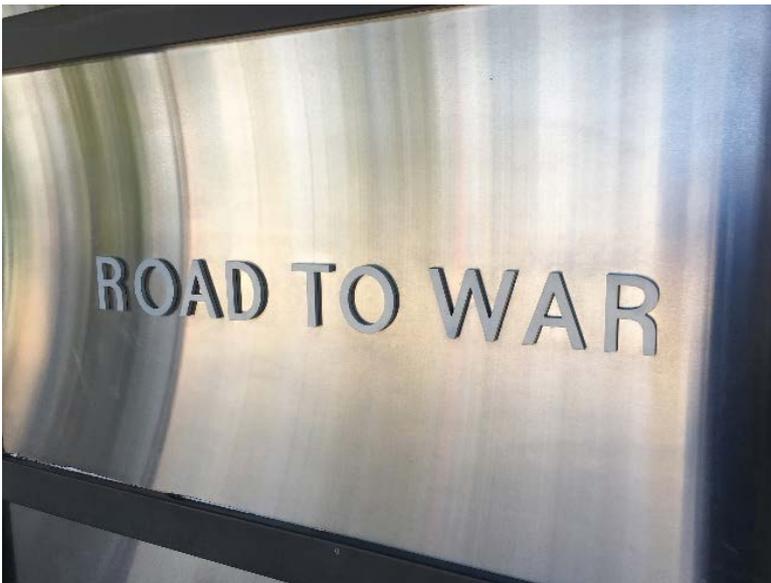
アリゾナ記念館・攻撃時資料博物館

アリゾナ記念館は、アメリカ合衆国ハワイ州オアフ島にある慰霊施設。1941年に発生した大日本帝国海軍による真珠湾攻撃で、乗組員 1177 名のうち 1102 名が死亡し撃沈された戦艦アリゾナ及びその乗組員を追悼するとともに、真珠湾攻撃自体を記念する施設となっている。現在この施設は沈没した戦艦アリゾナの真上に建設されている。この真珠湾攻撃を引き金に太平洋戦争が開戦され日米が本格的に第二次世界大戦へと参戦した。

記念館が建設されたのは 1962 年で、毎年 100 万人以上の人々が訪れている。記念館へはボートでのみ入ることができ、アリゾナ本体とは交差するような角度で上方に建設されている。記念館と陸上との往来や真珠湾攻撃の資料展示のほか訪問客への対応は、アメリカ合衆国国立公園局によって 1980 年に開設されたアリゾナ記念館ビジターセンターで行われている。また、沈没したアリゾナは 1989 年 5 月 5 日にアメリカ合衆国国定歴史建造物に指定された。



日本軍に撃沈されるアリゾナ



戦争への道博物館

ROAD TO WAR (戦争への道) と題して、アメリカと日本が戦争に入っていく過程を展示。



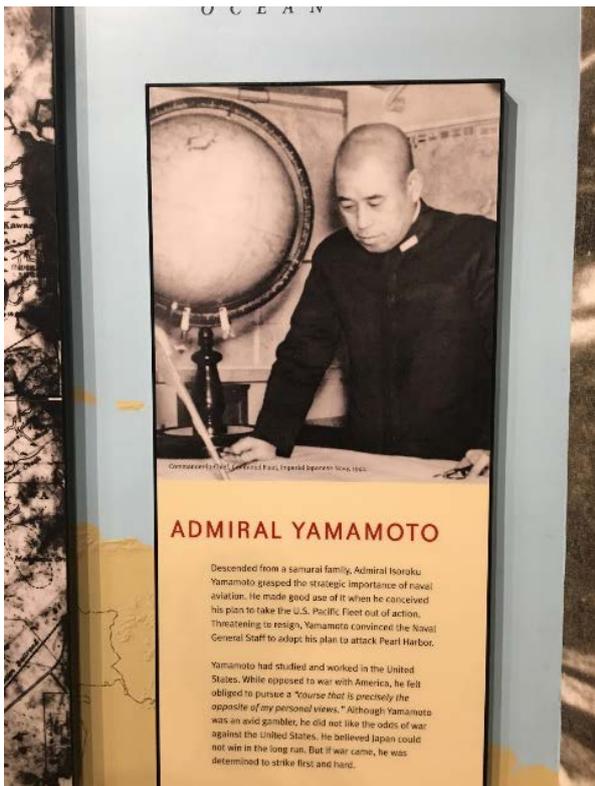
展示の最初で当時の各国の勢力図を表示。



真珠湾攻撃の日本軍の航路と、各ポイントでの出来事を展示



真珠湾攻撃の日本の空母「赤城」の模型を展示。

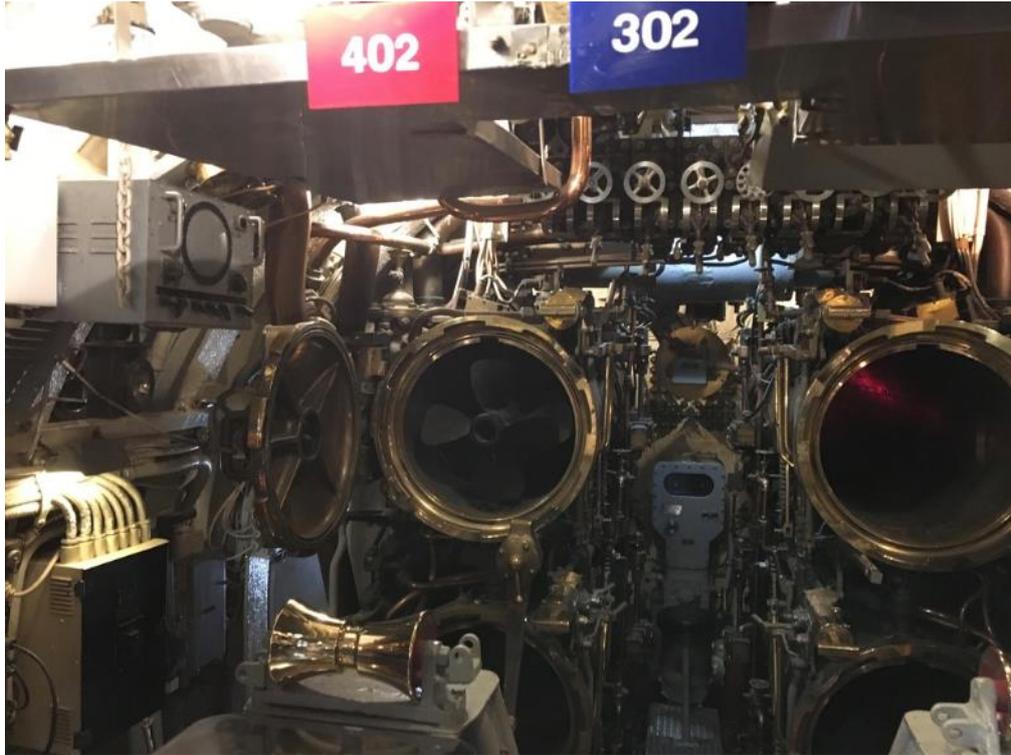


真珠湾攻撃のプランを立案した山本五十六についての説明。

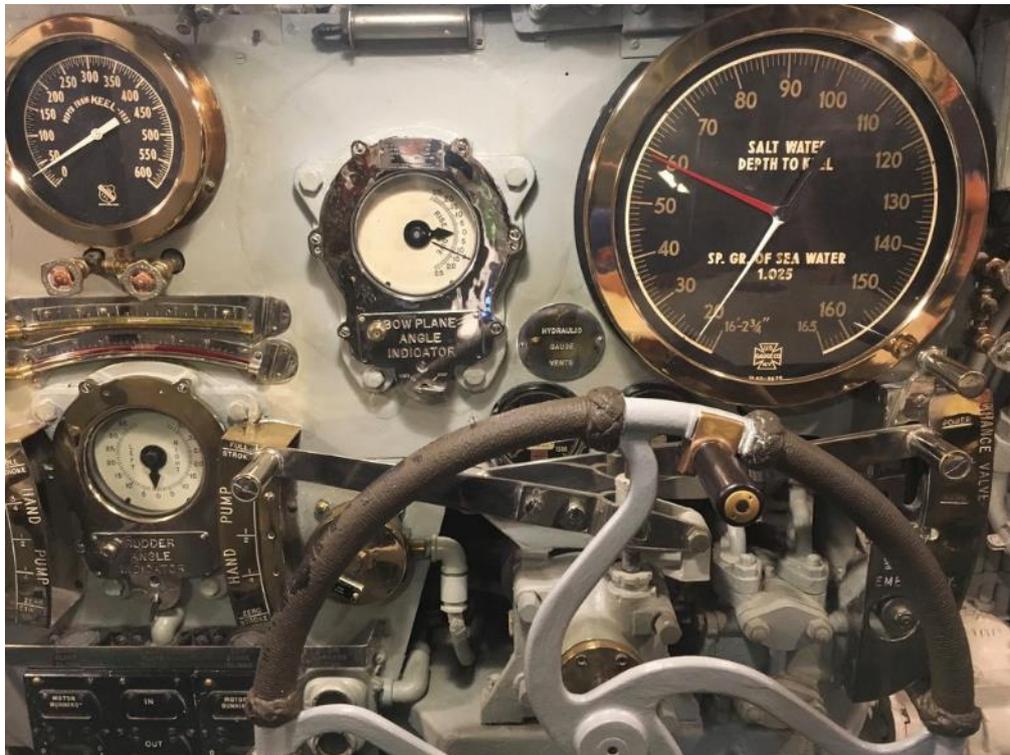
USS ボーフィン潜水艦



ボーフィンは、アメリカ海軍の潜水艦。バラオ級の一隻。1944年8月22日、沖縄からの学童疎開船「対馬丸」を撃沈した潜水艦。



ボーフィン潜水艦の魚雷発射台。



操舵室の様子。



船員の寝るベッドの様子。

アリゾナメモリアル献花（代表8名）



「WE WILL NEVER FORGET（私たちは決して忘れない）」と記された、沈没したアリゾナ号の錨。

代表8名による献花の様子



セレモニー



寄付金（50万円）贈呈の様子。



小松光雄常務による趣意書の朗読（趣意書英訳：白坂副団長）

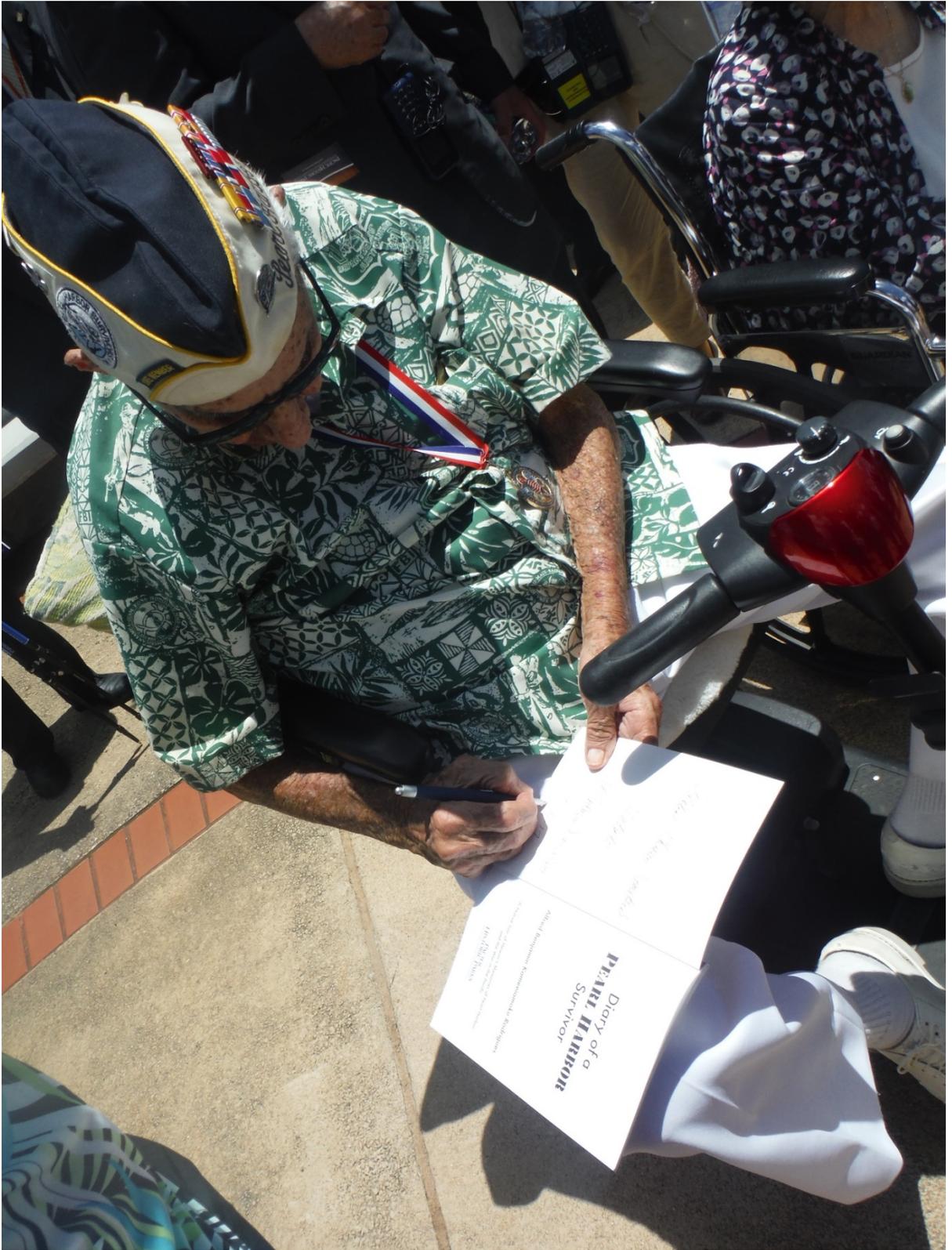


名誉団長 小松千恵子氏とアルフレッド・K・ロドリゲス氏の握手の様子。



セレモニーに集まってこられた一般見学者（写真撮影もされていました）





戦艦ミズーリ号見学

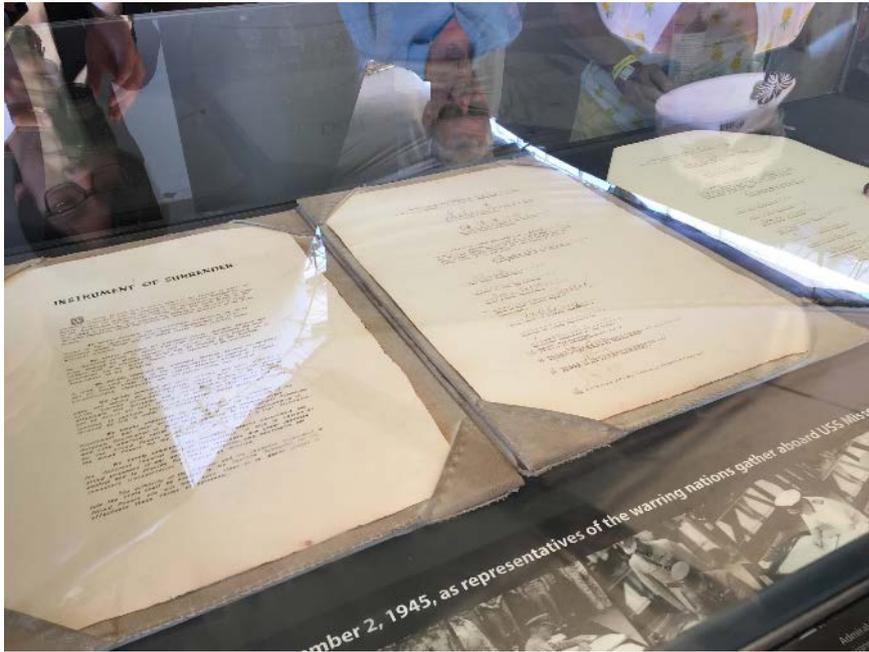
ミズーリは、アメリカ海軍の戦艦。アイオワ級戦艦の3番艦。艦名はアメリカ合衆国24番目の州に因む。その名を持つ艦としては4隻目。当時の大統領であるハリー・S・トルーマンの出身のミズーリ州に因んでミズーリが選定された。日本軍によるパールハーバー攻撃の2年後に造艦され、硫黄島、沖縄など、日本との戦闘に参加。第二次世界大戦終戦時には日本とアメリカ代表ダグラスマッカーサーをはじめとする連合国の調印式の場となった（その際、ペリーによる黒船が錨を下ろした場所と同じ場所に錨を下ろして、ペリーが日本に来航した時代のアメリカ国旗を掲げて調印式が行われた）。

朝鮮戦争後の1955年に一旦退役、その後、1984年に再就航が決定し湾岸戦争にも参加している。

1999年からは、ハワイ州パールハーバーで記念艦として保存されている。



16インチ主砲を艦の前後に備え、一発の発砲に300kg以上の火薬を使用、38km以上の遠方の目標を狙うことができる。このとき、次の砲弾を発射するまでの時間は約30秒で、目的の補足からアナログコンピュータによる角度の計算、照準、砲弾装填などをこの時間で終わらせるように訓練されていた。

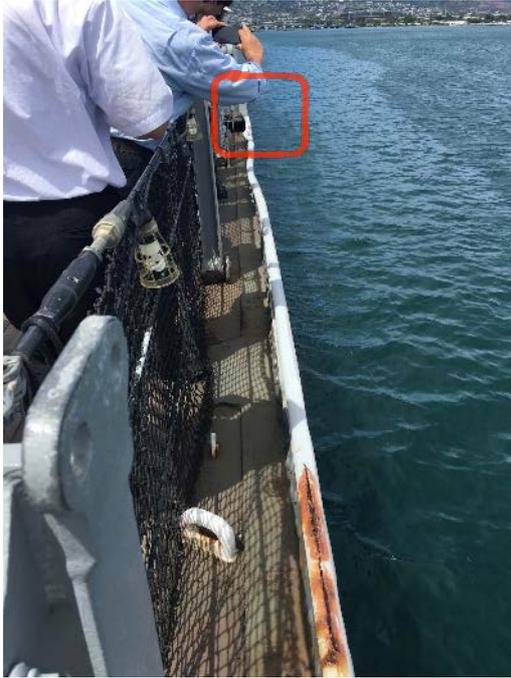


日本と連合国の調印式での降伏文書のレプリカ
 (右：連合国側降伏文書 左：日本側降伏文書)



戦艦ミズーリに特攻したカミカゼ特攻隊の説明書き。

カミカゼ特攻隊によりへこんだ戦艦ミズーリの甲板の様子。



この直後、戦闘機の主翼が甲板に直撃し、主翼中の燃料が船長室前で火事を起こした。この時、主翼と一緒に乗員の上半身も甲板に残っており、ミズーリの乗員はこれを洗い流そうとしていたが、ミズーリの艦長は、遺体を丁重に供養するように指示した。乗員はこれに反対したが、艦長は、「彼も我々と同じ兵隊であり、崇高な志を持って祖国のために使命を最後まで全うしようとした勇士である」と言って、翌日に甲板にて乗組員全員で丁重に葬儀を行った。この日本人が誰だったのか、アメリカは戦後調査したが、現在でも正確にはわかっていない。

アリゾナメモリアル（全員）



アリゾナメモリアルでの集合写真

なお、アリゾナメモリアルは予約ができず、当日もチケットを取るのが困難な場所とのことで、当日は代表8名分のチケットしか確約できない状況だったが、農協観光 永島さんと現地ガイドの方のご尽力により全員がアリゾナメモリアルを訪れることができた。



アリゾナメモリアルの下に沈没したままの戦艦アリゾナの上部と、一般の方により献花された花。

アメリカ合衆国ハワイ州アリゾナ記念館訪問 趣意書

人間自然科学研究所の30年の平和活動の中で、2005年にアリゾナ記念館を訪問、当時の理事長 ジョージ・E・サリバン氏の計らいで、献花・寄付をさせていただきました。

2013年9月に世界平和フィランソロピスト20人に選ばれ、カーネギーによって創設された、オランダ ハーグの平和宮（国際司法裁判所）100周年記念事業に招待いただきました。

この時出会ったオランダの芸術家 イングリッド・ロレマ氏は、カーネギー財団の依頼によりベルタ・フォン・ズットナー（ノーベル平和賞女性受賞者第1号）像を制作されました。ロレマ氏とカーネギーの曾孫であるリンダ・ソレル・ヒルズ氏の賛同を得て、ズットナー像を朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国の国境にある板門店（国連管理地）及びニューヨークの国連事務次長に就任された中満泉氏へ送り、ズットナーの念いが現代に甦り平和の流れが始まることを願っています。

東洋・西洋両文明の恩恵を受けた私たちの世代が、核と情報インフラを背景にした究極の対立から、※「和譲」を通じて共生の文化誕生を促し、人類進化への道筋をつけたいと念じ、アリゾナ記念館に献花・寄付をさせていただきます。

2017年6月6日

小松電機産業株式会社 代表取締役
一般財団法人人間自然科学研究所 理事長
小松 昭 夫
代読 アリゾナ記念館訪問使節団 団長
小松電機産業株式会社 常務取締役 小松光雄

※ 「和譲」 3つのソフトパワー（感情を加味した知恵、使命、会話力）と2つのハードパワー（集団組織力、道理を実現するための方便）から全体の文脈の中で生まれる力をいう。聖徳太子の「和をもって貴しとなす」の「和」、二宮尊徳翁の「推譲」の「譲」を組み合わせ、熊野大社宮司・出雲大社教館長 千家達彦氏がおつくりになった造語に、お許しを得て小松昭夫が意味付けをした。

以下 39名の氏名を明記する

アリゾナ記念館訪問使節団 (39名)

名誉団長：小松千恵子

団長：小松 光雄 (小松電機産業株式会社 常務取締役)
副団長：白坂 芳子 (小松電機産業株式会社 大阪営業所)
副団長：山本 悠太 (小松電機産業株式会社 東京支社)
副団長：寺田 信宏 (シートシャッター販売株式会社 代表取締役社長)
事務局：加藤かおり (小松電機産業株式会社 取締役)
事務局：宮崎 聖児 (小松電機産業株式会社 総務部)
事務局：伊藤 圭佑 (小松電機産業株式会社 情報システム)

Aチーム

田辺 勉 (小松電機産業株式会社 取締役)
足立 英信 (小松電機産業株式会社 水神事業部)
角 純一 (小松電機産業株式会社 東京支社)
阿部 哲也 (小松電機産業株式会社 水神事業部)
久保 隆治 (有限会社ニューテックス 代表取締役)
十河 孝史 (シートシャッター販売株式会社 部長)
藤原 進 (大昌株式会社 取締役営業部長)
中村 良 (小松電機産業株式会社 製造部)
稲垣 博行 (小松電機産業株式会社 製造部)
佐藤 秋隆 (小松電機産業株式会社 水神事業部)
木次 哲也 (小松電機産業株式会社 水神事業部)
井上 博登 (小松電機産業株式会社 製造部)
廣江 深 (小松電機産業株式会社 情報システム)
常陸 辰徳 (小松電機産業株式会社 製造部)
余村 和彦 (小松電機産業株式会社 水神事業部)
金山 裕一 (小松電機産業株式会社 大阪営業所)
真野 敏行 (小松電機産業株式会社 東京支社)
伊藤 健太 (小松電機産業株式会社 情報システム)
坪倉 鉄平 (小松電機産業株式会社 製造部)
金 有辰 (小松電機産業株式会社 製造部)
脇田 浩二 (小松電機産業株式会社 水神事業部)
川谷 真代 (小松電機産業株式会社 営業推進G)
杉原 正峻 (小松電機産業株式会社 水神事業部)
竹下つかさ (小松電機産業株式会社 営業推進G)
石倉 直輝 (小松電機産業株式会社 製造部)
高橋 拓也 (小松電機産業株式会社 製造部)
金元 祐樹 (小松電機産業株式会社 製造部)
梅田 匡哉 (小松電機産業株式会社 製造部)

Bチーム

小松 光子・小松 良雄・小松 美佐子

The Statement of Intent of Our Visit to the USS Arizona Memorial

During our 30-year activities of the Human, Nature and Science Institute Foundation, we made our first visit to the USS Arizona Memorial in 2005 in good offices of Mr. George E. Sullivan, Board Chairman, offering a wreath with some donation,

In September of 2013, I was chosen as one of the 20 Philanthropists of the Modern World and invited to the ceremony of the 100th anniversary of the Peace Palace (International Court of Justice) in The Hague, Holland, built by Andrew Carnegie.

Ms. Ingrid Rollema, a Dutch sculptress I met then, had created a statue of Bertha von Suttner, the first woman laureate of Nobel Peace Prize, by the request of the Carnegie Foundation. With the full approval and support of both Ms. Rollema and Ms. Linda Thorell Hills, a great-granddaughter of Andrew Carnegie, I am now planning to donate statues of Suttner by the same artist to Panmunjom in the Korean DMZ and the U.N. office of Ms. Izumi Nakamitsu who recently took office of Undersecretary-General in charge of Disarmament Section. By doing so, we would like to revive the spirit of Bertha von Suttner in our days to create a new trend of world peace.

Wishing to work as midwives to help create new culture of symbiosis which leads us to the steady road of man's evolution through the spirit of "*wajo* (ideal give-and-take)*," we would like to offer a wreath and make some donation to the USS Arizona Memorial.

The 6th Day of June of 2017

Akio Komatsu
President, Komatsu Electric Industry Co., Ltd.
Chief Director, Human Nature & Science Institute Foundation

The statement read by:
Mitsuo Komatsu, Party Leader
Managing Director, Komatsu Electric Industry Company., Ltd.

※ *Wajo*: A kind of power which stems from the total context of the issue. It is basically from the three kinds of soft powers (wisdom accompanied by feelings, mission and dialectic power) and two kinds of hard powers (group power and the power to practice reasons). It is a word originally made by Rev. Tatsuhiko Senge, Chief Priest of Kumano Taisha Shrine and Head Priest of Izumo Taishakyo Religion. "*Wa* (peace/harmony)" is taken from Prince Shotoku's "Harmony is to be valued" and "*jo* (to give)" is from Ninomiya Sontoku's "*suijo* (to give spared things)." (Akio Komatsu modified the meaning of the word with the approval and permission of Rev. Senge.

Honorary Party Leader: Chieko Komatsu

Party Leader: Mitsuo Komatsu

Deputy Leaders: Nobuhiro Terada, Yuta Yamamoto, Yoshiko Shirasaka

Executive Secretariats: Kaori Kato, Seiji Miyazaki, Keisuke Ito

31 other members:

A Team: Tsutomu Tanabe, Hidenobu Adachi, Junichi Sumi, Tetsuya Abe,
Takaji Kubo, Takafumi Sogo, Susumu Fujihara, Ryo Nakamura, Hiroyuki Inagaki,
Akitaka Sato, Tetsuya Kotsugi, Hiroto Inoue, Shin Hiroe, Tatsunori Hitachi,
Kazuhiko Yomura, Yuuichi Kanayama, Toshiyuki Mano, Kenta Ito, Teppei subokura,
Yujin Kim, Kouji Wakita, Mayo Kawatani, Masatoshi Sugihara, Tsukasa Takeshita,
Naoki Ishikura, Takuya Takahashi, Yuki Kanamoto, Masaya Umeda

B Team: Mitsuko Komatsu, Yoshio Komatsu, Misako Komatsu